

第2回クラブ社会奉仕委員長会議報告

社会奉仕委員会 委員長

西宮富夫 (箕面RC)

2014年4月26日(土) 2時より、大阪科学技術センターにて第2回クラブ社会奉仕委員長会議を開催し、成功裏に終了いたしましたことをご報告いたします。

まず、福家宏ガバナーより、ロータリークラブは毎年単年度で完了する社会奉仕プロジェクトを義務付けられています。地域のニーズに真に込んでいる社会奉仕は、受益者に喜びと感動を与えることができ、認知度の向上や会員増強にもつながり、そのまま会員研修であるといえることから、ロータリー戦略計画の3つの優先事項(クラブのサポートと強化、人道的奉仕の重点化と増加、公共イメージと認知度の向上)のいずれにも関わるとの激励のご挨拶をいただきました。

次に第2520地区復興支援特別委員会委員長・地区研修リーダーの笹氣光祚バスターには「震災復興その後」について講演していただきました。まず「震災後の宮城県の経済情勢」というテーマで全体的にお話ししていただき、その後多くの話題にふれられましたが、現在、被災地では子供新聞を作る、高齢者の話し相手になるなどのいろんなボランティアが活発ですが、資金不足のことが多いので、ロータリーの社会奉仕活動として共同で行うことも考えているとのことでした。

なお、震災後3年経った今は、ちょうどメチャクチャになった家の中を片づけ、これから家を昔のように直すのか、改造して一新するのがいいのか、考えているところで、これからもまだまだ支援していただきたいとお

話でした。

第2660地区補助金小委員会委員長・災害支援プロジェクト委員会副委員長の宮里さまには当地区の災害支援について講演していただきました。現在地区災害復興基金は100万円ほどになっており、東日本大震災の支援プロジェクトにはロータリー財団の地区補助金を主に活用していただきたいとお話がありました。

第3ゾーンロータリーコーディネーター・当地区研修リーダー井上バスターには「決議23-34(社会奉仕に関する1923年の声明)」について講演していただきました。1918年ごろから理論派と行動派の大論争があり、ロータリー分裂の危機もあったが、この危機を救ったのが1923年セントルイス国際大会にナッシュビルクラブが提案した第34号の決議であり、歴史的な価値をもつとのことでした。また、ロータリーの「奉仕の1世紀」には1923年の画期的な出来事として、決議案34号を採択し、奉仕プロジェクトに関するクラブの自立性についてのロータリーの方針を確立したことが記述されているとのことでした。

最後に泉博朗ガバナーエレクトから会議の総括していただきました。その中で東日本大震災を風化させないようクラブ社会奉仕委員長の皆様に激励がありました。また、クラブの社会奉仕活動に若い人の支援がほしい場合、ローターアクトサポートシステムを活用してほしいとのことでした。



講演者：
R | 第2520地区復興支援特別委員会委員長
笹氣光祚バスター